

高校生・ヒューマンフェスティバル 2006 アピール

参加いただいた皆さん、今日のフェスティバルはいかがでしたか。短い時間でしたが、人権について様々な「出会い」のある1日を過ごしていただけたのではないのでしょうか。

午前中は、「ロックソーラン」や和太鼓などの躍動感あふれる舞台発表、そしてそれぞれ思いの詰まった人権作文の発表を受けました。午後からの体験学習コーナーでは、手話や点字・和太鼓など、日頃なかなかできない貴重な経験ができたと思います。意見交流コーナーでは、初めて出会った他校の人たちとも様々な交流ができたのではないのでしょうか。また、ロビーでは各校の人権文化に関わる取り組みが紹介されていました。これらの一つ一つに、私たちが人権を大切にしていく上で、しっかりと受け止めるべきことが盛り込まれていたと思います。様々な「体験」や同じ思いを持ったなかまとの「出会い」、また初めて聞いたこと・自分とは違った意見など、様々な「気づき」があったことと思います。今日得ることができたこうした感動を、少しでも明日からの私たちの生活の中で活かしていきたいものです。

ところがここ最近、一人一人の人間が持つ、かけがえのない「いのち」があまりにも軽んじられている事件が起きています。未だに世界各地で起きている戦争や紛争だけでなく、日本でも重大事故に見られるように、人命よりも利益を優先するような社会の風潮には、大きな怒りを感じます。そして何よりも私たちの身の周りには、「いじめ」の問題があります。誰もが「いじめはよくない」と言いつつ、一方では自ら命を絶つところまで追い込まれている人もいます。いじめを受けることで本当に惨めで辛い思いをし、心配をかけたくないので家族にも話せないという、孤独感と絶望感の入り混じった気持ちを抱えた人が私たちの周りにはいませんか。もし、そうだとしたら少しでも声をかけ、「共に生きていきましょう」という気持ちを伝えることができるかどうか、今私たちに問われているのではないのでしょうか。

今年のフェスティバルは、「わかり合うため 友だちと交流するんだ!!」というサブテーマを掲げました。うわべだけでない、本当の友情を求めていこうという願いがそこには込められています。人間というものへの信頼を完全に破壊してしまう「いじめ」が大きな問題となっている今だからこそ、本当に信じられる人間関係を築いていくため、このフェスティバルで得たことを活かしていきましょう。まず、自分の身の周りで何かできることはありませんか。一人ひとりの、この小さな一歩から始めましょう。そして、このフェスティバルから、様々な人々が「希望を持ち、共に生きる」社会を築くため、人間どうしの輪を私たちの手でつないでいきましょう。

2006年11月19日